

● 人間・環境学研究科 教育研究上の目的と方針

人間・環境学研究科 教育研究上の目的

人間・環境学研究科は、環境、自然、人間、文明、文化を対象とする幅広い学問分野の連携を通じて、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深めるとともに、人間と環境のよりよい関係を構築するための新たな文明観、自然観の創出に役立つ学術研究を推進することを目指す。また、こうした研究活動を推進するなかで、人間及び環境の問題に対して広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって取り組むことのできる研究者、指導者、実務者を養成することを目的とする。

<共生人間学専攻>

共生人間学専攻では、「人間相互の共生」という視点に立ち、人間と環境の相関関係において人間の根源を探求しつつ、現代社会の具体的諸課題に取り組み、社会的要請に柔軟に応えられる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

<共生文明学専攻>

共生文明学専攻では、共生・融和の可能性を追求するため、多様な文明の間にみられる対立・相克の構造を解明するとともに、歴史・社会・文化の諸相にわたって複雑にからみあう文明の諸問題に新たな見地から取り組み、解決の方向性を示すことのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

<相関環境学専攻>

相関環境学専攻では、人間と自然環境の関わりを包括的に理解することを目指した基礎研究を展開するとともに、自然と人間の調和を図るために必要な新しい社会システムの確立に、高度な見識と科学的・論理的判断力をもって貢献することのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

人間・環境学研究科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

現代の科学・技術は、人間の可能性を限りなく押し広げてきた反面、地球環境問題、エネルギー問題、地域紛争、富の地域間格差等の諸問題を次第に顕在化させ、グローバル化の波とあいまって、わたしたちに新たな課題をつきつけています。大学院人間・環境学研究科は、こうした新たな問題群に立ち向かい、地球規模での危機的状況を打開・克服するために、これまでの知の蓄積を踏まえつつ、新たな知のパラダイムを構築することのできる人を求めています。

人間・環境学研究科への入学を希望する人に求めるものは、下記に示す資質・能力です。

- (1) 特定の学問分野を主軸とする専門的研究において、問題の設定からその解決方法の提示に至る研究過程に取り組むことのできる知識、能力ならびに熱意を有していること。
- (2) 他者や異文化に対する理解を尽くした上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現するプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ならびにリーダーシップを持っていること。
- (3) 人文科学・社会科学・自然科学を横断する幅広い知識と教養を身につけ、自らの専門分野のみに閉じこもらない、人間・文明・自然に対する、多角的な視点や柔軟な発想力を培っていること。
- (4) 「人間・環境学研究科」の名称にある「・」は、加算的な意味合いの「・」ではなく、乗算的な意味合いのそれである。この名称が示唆するように、既成の知を熟知しているだけでなく、それを基盤に新たな創造的飛躍をなしうる知的軽やかさを身につけていること。

人間・環境学研究科の入学者選抜においては、上記の資質・能力を多角的に測るため、専門分野についての筆答試験、外国語の筆答試験、および口述試験または論文試験を柔軟に組み合わせ評価をおこないます。

人間・環境学研究科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 社会に湧き起こる新たな問題群の解決には従来の思考枠では対処することができないという基本認識に立ち、新しいパラダイムを創出するという目的意識の下に、本研究科に共生人間学、共生文明学、相関環境学の3専攻を置く。同一専攻に近接分野を多く配置することによって専門性に力点を置き、専門を掘り下げてその裾野を広げ、裾野を広げることによって頂上を高くすることを旨とする。
2. 修士課程では、学生には研究指導科目を中心とした自専攻開設科目を履修させるが、研究の視野を拡大するために他専攻開設科目の履修をも推奨する。指導体制については、主指導教員と複数の副指導教員による複数指導体制を採り、狭い専門の殻に自閉しないよう配慮する。
3. 学位論文の作成を目的とする博士後期課程では、指導教員との密接な接触の下に研究を深化させる。ここにおいても副指導教員を配置した複数指導体制を採り、複眼的思考の強化育成を図る。
4. 新しい研究領域を創成しようとする本研究科においては、教育課程は単位履修と一体であるとの認識に立ち、時代的要求をも考慮しながら講義科目の内容を深化させ、研究の自発性を高めていく。
5. 学際的ないし超学的研究を指向して新しいパラダイムを創成するという研究科の理念を実現するために、講座横断的・専攻横断的なコースワークの設置や、特定の問題に対して諸学問分野を動員するといった教育研究のあり方を模索する。

人間・環境学研究科 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 修士課程においては、必修である研究指導科目、選択必修である自専攻開設科目、さらに選択科目である他専攻科目を履修し、幅広い知識と高度の研究能力を修得した上に、相当の研究成果を上げた学生に対し、修士号を授与する。
2. 博士後期課程においては、特別研究、特別演習、特別セミナーを履修し、所定の単位を修得した上で、「着想の独創性」、「問題解決の企画力」、「持続的努力」などの観点からめざましい学問的成果を上げ、優れた学位論文を作成した学生に、博士（人間・環境学）の学位を授与する。

人間・環境学研究科 学位授与基準

- ・ 修士課程においては、必修である研究指導科目、選択必修である自専攻開設科目、さらに選択科目である他専攻開設科目を履修し、幅広い知識と高度の研究能力を修得した上で、「着想の独創性」、「論述の論理性」などの観点から相当の研究成果を上げたと認められる学位論文を作成した学生に対し、修士（人間・環境学）の学位を授与する。
- ・ 博士後期課程においては、特別研究、特別演習、特別セミナーを履修し、所定の単位を修得した上で、「着想の独創性」、「論述の論理性」、「問題解決の企画力」、「持続的努力」などの観点からめざましい学問的成果を上げたと認められる優れた学位論文を作成した学生に、博士（人間・環境学）の学位を授与する。